

■地域の企業訪問■ 4月25日(火)

株式会社 シノテスト



会社概要	
社名	株式会社シノテスト
代表取締役社長	塚田 聡
本社所在地	東京都千代田区神田駿河台 3-7-9
創業	1951年9月
設立	1953年3月
事業内容	臨床検査薬及び機器の開発・製造・販売
資本金	140百万円
売上高	10,428百万円(2022年3月期)
従業員数	314名

館報の取材にご協力
いただいたのは、
総務部チームリーダー
喜村卓也様です。
取材内容は以下のとおりです。



- 社名の由来を教えてください。また現在最も注力している検査薬はどのようなものですか。**
社名は創業者篠原夫妻の「シノ」と検査の「テスト」を組み合わせたものです。亜鉛を特定する検査薬、味覚障害、亜鉛欠乏症等を特定する検査薬等です。
- 毎年売り上げの5%、5億円を投資して新たな検査薬の開発を継続していきけるのはなぜでしょう。**
部署ごとに目的をもって業務を行っています。営業であれば主力営業先である病院の情報を収集して的確な提案を行い、また生産性を向上させるために新システムを導入しています。
- コロナウイルスの感染拡大によって、御社の業務に影響はありましたか。**
コロナウイルス感染初期は病院や健診センターが閉院していたため、売上減となり影響を及ぼしました。また、当社の検査薬の供給がとまることによって、病院の業務に影響がでないように細心の注意を払いました。
- 大野台地区の事業所で働いている社員の在籍人数は何名位ですか。**
大野台の工場と相模原ラボには約200名の社員が在籍しています。
- 今回、新社屋(相模原ラボ)を建設し、移転された理由をお聞かせいただけますか。**
昭和36年大野台に工場移転して以来、増築・改築等を行ってきましたが建物が老朽化したため、部署の分け隔てなく会社一丸となって業務を行うほうが効率が良くなり、また新しい研究設備で成果をあげてもらうため建設しました。相模原ラボは研究施設で、在籍数は100名です。
- 当館事業に長年ご協力いただいておりますが、どのようなお考えのもと、地域事業のご支援に取り組まれているのでしょうか。**
企業の運営上、地域との協力が不可欠であり、情報提供、情報共有を常に行い、住民の方に当社がどのような企業なのかご理解いただくことが大切と考え、当社は積極的に取り組んでいます。旧社屋跡は、当面社員駐車場として使用しますが、休日は、公民館、近隣の小学校、幼稚園等にお貸しして地域の活性化のために役立てていただこうと考えております。また、地元の高校から毎年必ず社員を採用しています。当社は地域とのつながりを重要視していることをご理解ください。
- 御社から見た大野台とは、どのようなイメージですか。**
私見になりますが、これまで大野台地区は準工業地帯というイメージでしたが、最近は住宅が増え、住民の方は子どもを育てやすく住みやすい環境を以前に比べて求めるようになってきていると感じております。そのため、今回の建物も窓を小さくしたり、北側の建物をセットバックすることで目線が合わなくする等近隣に配慮したデザインとしました。屋上に近いテラスには、花壇と樹木等植栽スペースを設け、自動散水設備を備える等、SDGsにも取り組んでいます。
本日は、お忙しい中貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございました。
今後とも、公民館事業にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■文化部事業報告■ 2月8日、15日、22日

講師：相模女子大学日本語日本文学山田純教授

第27回文学講座 「風土記の世界」



- 講座スケジュール
- 2/8(水) 第1回 古風土記の世界～神話伝説宝庫としての風土記～
講座内容の一例として、『出雲の国風土記』出雲郡「宇賀の郷」・・・西暦700年代中頃に成立とされる。
 - 2/15(水) 第2回 風土記の素性とは～解文という政府報告書の姿として読む～
代表的な風土記として、『豊後風土記』速見郡・多野条『豊後国風土記』・・・西暦730年頃に成立とされる。
 - 2/22(水) 第3回 上古の相模を求め旅～秦氏の水路を遡る～
【講座内容】神奈川県、すなわち相模の国風土記は、実存していないとのこと。

神奈川県、すなわち相模の国風土記は、実存していないとのこと。相模の国の神社といえば寒川神社だそうですが、今回は、海老名の有鹿神社を中心に見るとのことです。(有鹿神社は「本宮」「中宮」「奥宮」と三社構造になっている。なお、全国レベルで有名な古社のため、式内社には寒川神社と有鹿神社が載っているとのこと。寒川神社(名神大)は、奈良時代に成立していた社、相模の国のトップの神社、有鹿神社は、縄文中期にできたのではないかとのことです。もともと有鹿神社は、鳩川の源流に位置しており、崖上の勝坂遺跡生成の契機となっていた神社でしたが、川の合流点に移ってきた。そこには「交流・交易」という要素があったからだそうです。また、水が湧く近くに神社が出来るようにしたのではないかと、申されておりました。なお、勝坂神社が川が高いところに鎮座しており、参拝に際しては、坂があり滑るため、雨上がりを選べた日に行かれたらよいとのこと。最後に参加者から質問も寄せられ興味津々でした。また、会場の雰囲気は、歴史の内容が濃い講義で、有意義なひと時を満喫でき大盛況でした。(取材：K)

■文化部事業報告■ 第76回こもれびコンサート 3月5日(日)

<演奏者>



トランペット・北浦 康司、バンジョー・後藤 光作
クラリネット・石塚 岐子、トロンボーン・田島 大樹、
スーザフォン・梶航 介、ドラムス・前田健次

Dixieland jazz!!

<演奏曲>



- ユー・アイ・サン・シャイン
- 向日葵の道
- セントルイスブルース
- 君微笑めば
- 夢路より
- 大きな古時計・おじいさんの古時計
- 世界は日の出を待っている
- リパブリック賛歌
- ジャンバラヤ
- いつくしみ深き
- ラブ L-O-V-E
- テネシーワルツ
- ダイナ
- 聖者の行進



※アンダーラインは歌あり

『後藤光作とリパティエシックス』様を迎えて、生演奏のjazzを堪能しました。北浦 康司氏がトークを担当。「二度呼んでくれたのは、大野台公民館だけ」と笑いを誘いスタート。6・8・12は聞き覚えがある曲で、8. は「おたまじゃくしは蛙の子〜」や「まーるい緑の山の手線〜」の替え歌があります。笑いあり、心に沁みる演奏、ありがとうございました。月1回、相模大野『Fagotto』で定例ライブを行っているので、是非、足を運ばれては如何ですか。(取材：S)

おもしろ科学実験

■青少年部事業報告■

2月11日(土)

元児童相談所の経験をもつ、亀山先生を迎えて開催された。当日は21名の子どもたちが参加。かかぐには、何かの物質が変わる【化学】と今回実験する、どうしたらそうなるという【科学】があり、実験を失敗しても止めずに学ぶことが大事とのこと。本日のテーマは【錯覚】で、初めに2種類の絵を見てそれぞれの錯覚を体験。目で見たものは頭の後ろの脳が見ている。目から脳への伝達方の錯覚は世界の学者が研究中である。実験では白黒模様のコマを作って回すと、模様によってはピンク色や青色が見える。また、白黒模様の紙で箱を作って覗くとビルの屋上から風景を見ているようだった。目の錯覚は街中に活用されています。探してみてください。(取材：S)



2月25日(日)

落ち葉かきと花炭づくり&焼き芋

大野台こもれびふれあい広場にて「木もれびの森を知ろうよ」をテーマに、木もれびの森の間伐材を使って焚火をおこし、松ぼっくりや折り紙で作った鶴を缶の箱に入れて熱して花炭づくり体験をしたり、さつま芋を水にひたし、新聞紙とアルミ фольドで包み、それを焚火に入れて焼き芋づくり体験、また森の中で参加者に熊手で落ち葉を集めてもらう落ち葉かき体験等も行いました。参加者は手みやげとして配られた焼き芋をうれしそうに受け取っていました。

